

八王子市

学 校 名	八王子市立鹿島小学校
コーディネーター数	1人
ボランティア数	30人

活動の概要とコーディネーターの役割

鹿島小学校は昭和51年の開校以来「学校・家庭・地域がともに手を取り合って子供たちを育てていく必要がある」との考えに立って「地域に根ざした学校」、「地域とともにある学校」を目指し、学校を、より「地域に開かれた存在」にしようと努めている。

<地域とともにある学校へ>の取り組みとして以下のことを行っている。

「学校安全ボランティアの募集活動」

学校長と学校コーディネーターの連名で協力依頼ポスター及び協力依頼チラシを作成し、校区内の各町内会・自治会・住宅管理組合・老人会等15団体の代表、民生児童委員(2名)、青少年育成指導員(1名)を一軒一軒訪問し、学校安全ボランティアの趣旨を説明するなど、「地域の目、地域の力」で子供たちを見守るために協力が必要なことを訴える。

また、学区内の店舗経営者、保護者、知人にも同様に協力を依頼するほか、協力をしてもらえそうな方にはコーディネーターが自宅を訪問し、お願いしている。

例年、募集資料250セットを用意し配布している。

対話を通し「地域とともにある学校」の必要性を訴え、当初4名だった学校安全ボランティアが、現在約10名になり、毎日の登下校の安全を見守ってくれている。

「生活科・昔遊び」の授業支援

多くの地域の方や保護者と子供たちが触れ合いながら、コマ回し、折り紙、あや取り、メンコなどいろいろな昔遊びを通し、日本文化に親しむとともに生活体験を豊かにしていくことをねらいとする。

子供たちと一緒に「昔遊び」を行っていただける「ボランティア」の募集を先の15団体、民生児童委員、青少年育成指導員に行う。

昔遊びの会場として種目別に10コーナーを体育館に設営する。20名の地域の方が各コーナーを担当するほか、約10名の保護者がサポーターとして活動を補助する。

活動後は遊びを提供してくれた地域の方に、子供たちがお礼に書いた手紙を、コーディネーターが一人一人を訪問し手渡す。そして、コーディネーターが代表して児童に返事を書く。今年で6年目になり、例年の行事として定着してきている。

活動上の工夫や配慮等

学校と地域の接着剤のつもりで日々の活動を行っている。細かいことはなるべく言わず、一人一人が主体的に取り組んでもらえるようにしている。対話を通し地域と学校のつながりを作れるよう努力している。

活動の成果や感想（実践を通した児童・生徒、地域の活動者、学校等の声や反応など）

毎朝、安全ボランティアとして通学路に立って子供たちと会話を交わすことにより子供達との信頼関係が深まっている。

少しずつではあるが協力者の数は増えている。ボランティアの大変さもあるが、学校安全ボランティア、授業支援ボランティアともに、やりがいを感じている方も増えている。